

ガバナー 佐藤哲章

News Letter

月曜日

2021年8月23日

第2号

ガバナー公式訪問が延期になる！

まずお知らせしなければならないのは、8月21日から28日まで予定されていたガバナー公式訪問が、コロナ禍のため開催できなくなったということです。大分・宮崎県で連日150～250名の陽性者が出ている現状では、やむを得ないと受け止めています。しかし、このガバナー公式訪問は、各クラブの皆さんと親しくお話ができ、今年度の夢も語り合える絶好の機会です。何としても、コロナが収まり始めるであろう時期に、コンパクトな形式で開催したいと思います。今後の対応については地区役員の皆様と協議しながら、現実に即応した方法でやってまいります。このニュースレターもその一つです。

会員増強策のアイデア続々



ゾーンチェアパーソンや各クラブ三役の皆様、お疲れさまです。コロナ禍の中、第1回諮問委員会が開催されたと思いますが、ガバナー公式訪問質問書の「会員増強のために良いアイデアがあればお書きください」から、各クラブの多くの貴重な意見を、情報公開させていただきます。

まず、多かったアイデアは、①会員の友人知人からふさわしい人材を紹介してもらい、クラブ三役やスポンサー会員で訪問勧誘することが一番でした。次に、②クラブメンバーが集まる席（例会やアクティビティ、ゴルフ交流も含む）に誘い、親睦を深め、入会したいと思ってもらうようにするということです。三番目に多かったのは、③会員1人1人がライオンズクラブの奉仕の素晴らしさを理解したうえで、自クラブの良さと楽しさについて熱意をもって勧誘する、でした。

そのほか、少数意見ではありますが、注目されるアイデアとして、ターゲットに対し定期的に声掛けを行う。地域内の各種団体と連携、情報共有しながら会員増強を図る。他のボランティア団体との連携をして加入を促進する。事業や活動を出来るだけ地元新聞やCATV等メディアに取り上げてもらいPRする。各組織の青年部および女性部へのアプローチを繰り返し行う。支部クラブ会員を積極的に誘う。会員増強委員会を設置し、交流の場の提供とスポンサー経験者との意見交換をする。また異業種の経営者を例会にゲストとして迎え、懇親会で情報交換を行う、などがありました。

ぜひ参考にしていただいて、各クラブが年度初めにあげた目標増強数の達成と純増を、キャビネット地区役員と力を合わせて、実現しましょう！
キーワードは「熱意」です。

出席率を高め、例会を楽しくするための工夫

退会率を抑え、会員の純増を達成するためには、会員が所属クラブに満足しているのか、例会やアクティビティへの参加はどうなのか、交流がうまくいくかなどを知ることと共に、クラブ例会に参加することが楽しくしかたがないという工夫をすることで、退会率の防止にもつながりますし、クラブの魅力を十分に伝える大事なコミュニティーの場だと思われます。そこで、各クラブの工夫がどのようにされているか、お伝えします。

- ① 懇親会を定期的に開催し、会員同士のコミュニケーションを図る。②卓話等、充実した例会を実施する。③例会にて1人ずつ1分間スピーチをしてもらい融和を図る（全員の一言タイム）④イベント例会（俳句・納涼・忘年・バザー例会）でアトラクションを行う。⑤例会案内に誕生者の名前を載せ、誕生日や長寿の祝い品を贈る。⑥季節、時節にマッチングした外部講師を招き、卓話を願う。⑦日常でのスポーツ交流を含む信頼関係を築く。⑧例会終了後も、コミュニケーションが取れる時間を設け、世間話や相談をしたり会員同士の絆を強化する。⑨例会ごとに着席場所を変えて、各会員の話す機会を増やす。⑩黄金の椅子の実施（300円徴収して抽選で2名が当選する方式）などがアイデアとして出されておりました。なるほど、という提案もあるようです。

ウェイン・マデン元国際会長は、ライオン誌で次のように述べています。「ライオンであることにこれほど満足感を得られるのは、親しくしていて気が合う同じ価値観を持った仲間と奉仕できるからに他なりません。」

オンラインの公認ガイディングライオンセミナーに参加しよう！

公認ガイディング・ライオン・プログラムとは？新クラブ、既存クラブ、そしてクラブ再建のために企画されたプログラムです。研修を受けると、国際協会から、公認ガイディングライオン証が交付されます。3年間、この公認ガイディング・ライオンの資格（CGL）は有効です。

クラブ支援のスキルを高めるために役立ちます。自クラブの活性化につながります。

クラブ三役はもちろんですが、クラブ理事や若手会員には受けてほしいと思います。

- 次のような時に役立ちます。 • クラブ役員と会員のオリエンテーションと研修
• クラブの成長と発展の動機づけとサポート • クラブに役立つ情報や資料の入手先確認 • 結成後最初の2年間における順調な運営など。

公認ガイディングライオン・オンラインセミナーは、10月16日(土)15時～17時に、全ゾーンチェアパーソン及び64クラブの三役および希望する会員を対象に、パソコンのZoomを使ってどこからでも参加できる研修です。日本ライオンズ大学副学長の濱野雅司元地区ガバナーが講師として、特別に337-B地区だけのために、実施できることになりました。この資格は、国際協会から認定されるものです。研修することでクラブの良いところを見つけ、改善し、成長と発展のために、新たなチャンスを発見できるように、皆さんのスキルアップをするセミナーです。

クラブが準備した会場で、Zoomができる環境であれば複数名でも参加できます。ただし、国際協会への申込者の届け出が必須になっており、研修を修了すれば所属クラブを通して、本人に認定証が届けられます。ぜひ、この機会に参加しましょう！



FWT 委員会のヘアードネーションにご協力を

“ヘアードネーション”とは、小児がんや先天性の脱毛症、不慮の事故などで頭髪を失った子どものために、寄付された髪の毛でウィッグを作り無償で提供する活動です。※寄付された髪の毛は、選別・加工の工程を繰り返したのちウィッグとして生まれ変わり、子ども達（レシピエント）へ届けられます！地域の美容室のお客様に、長い髪を切ろうかなあと思ったら、ほんの少しだけ手間をかけ誰かのために役立ててみませんか？と声かけて下さい。キャビネットのホームページから資料はダウンロードできます。詳しくは、FWTコーディネーターへお聞きください。

大分県・宮崎県の赤十字献血センターを表敬訪問 欽迎！

7月29日に大分県赤十字血液センターを訪問し、山田健治所長、関総務課長、光成献血推進課長にお会いしてきました。献血バス4台が大分県内を回っていますが、その実績はライオンズクラブの献血推進活動に負うところが大で、我々の長年の継続事業が高く評価されていることが確認できます。

次に、公益財団法人 大分県アイバンク協会の新名圭子 EB 認定スタッフからは、多くの未使用はがきの寄贈が協会の運営に貢献しているとの話でした。公益財団法人 大分県臓器移植医療協会の訪問もしました。

宮崎県赤十字血液センターは、7月28日に訪問。北折健次郎所長を始め、大西事業部長、清田献血推進課長から「今日は献血バスの新車納入の日なんです。また献血当日予約アプリも宣伝中ですのでよろしく」と説明があり、ここでも献血事業はライオンズクラブのサポートに負うことが多いとのことでした。さらに、全クラブで、献血活動に力を入れて We Serve 奉仕活動をしましょう。

宮崎市ではさらに、公益財団法人 宮崎県アイバンク協会、宮崎県アイバンクライオンズ協力会、県庁内にある公益財団法人 宮崎県移植推進財団、薬害乱用防止教育認定講師の県薬務課薬務対策室、県教育庁のスポーツ振興課 健康教育担当を訪問して、今後ますますのライオンズクラブとの連携強化をお願いしてきました。そこでわかったことが一つ、各学校で薬害乱用防止教室を計画する時は、地元の保健所と協議することで各学校ごとの情報を共有できるようです。ぜひ連携してください。



大分県・宮崎県の社会福祉協議会との災害時のボランティアセンター支援協議会



7月28日に宮崎県社会福祉協議会との第1回災害支援定例会議が行われました。県内主要町村の社協からボランティアセンター担当者が集まり、地震や風水害の大災害の時にそんな物資・機材が必要になるか提示され、意見交換を行いました。

意見として、Webに強い情報発信ができる人材、床下消毒やブルーシートを屋根に設置できる専門的技術者が必要になるということです。まだアラート組織の全体像はこれからとの作業になりますが具体的な協議をこれからも進めてまいります。

7月29日には大分県社会福祉協議会で草野俊介会長を交え、富永健司アラート委員長、下堂園一将第二副地区ガバナー、県社協ボランティア担当の藤田、森職員と協議を行い、基本的に連携協定を進めることで合意しました。今後、作業を進め、連携協定式と前後して災害対策研修会も開催したいとの意思表示がありました。大きな前進です。大分県社会福祉協議会の災害支援ネットワーク組織には、あらゆる団体が加盟しており、337-B地区の参加も検討してまいります。

皆様のご意見、ご提案をお待ちしています。

ガバナー佐藤のメールアドレス info@kaminoya.jp クラブ名とお名前もお忘れなく！